



ADRC Highlights

Vol.144

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

1 August 2006

➤ 『稲むらの火』を利用した津波啓発ワークショップ

アジア防災センター (ADRC) は、UNESCO/IOC および UN/ISDR の支援のもと、NGO アジア防災・災害救援ネットワーク (ADRRN) のメンバーである SEEDS、MERCY Malaysia、バングラデシュ災害予防センター (BDPC) と協力し、インド、インドネシア、バングラデシュにおいて、津波防災教材『稲むらの火』を利用した津波防災知識向上のためのワークショップを開催しました。

インドでは、SEEDS が主催する『学校安全運動』のキックオフイベントの一部として、インドのアンダマン諸島において『稲むらの火』を取り入れた防災教育ワークショップが開催されました。アンダマン&ニコバル諸島の政府・教育委員会関係者、教師、生徒など総勢約 40 名が参加し、子供たちへの防災教育やそのシステム化・カリキュラムへの統合の重要性について議論が行われました。SEEDS は、アンダマン諸島にある 40 の学校で学校防災教育プロジェクトに取り組んでおり、これらの中で教材が活用されています。



また、島内にある小学校では、『稲むらの火』のヒンドゥー語版を生徒に配布し、『稲むらの火』の日本語アニメが放映されました。その中のシーンには、生徒たちが実際に見た津波の前兆などの場面も含まれており、生徒も真剣に鑑賞していました。誰にでもわかりやすく津波の教訓や知識を次世代へ伝える教材の重要性について再確認させられました。



このワークショップでは、防災教育についての情報やツールの紹介および、それらをいかに活用するかについて学校教育関係者に考えてもらうことを目的としていました。前半は、防災教育ツールの紹介や災害および防災知識に関する講義が行われ、後半は、参加者を 10 のグループに分け、前半で学んだ情報を生かして具体的なアクションプランの検討・発表を行っていただきました。

津波の経験 (津波から逃れた方法、混乱を抑える方法など) の話を盛り込んだストーリーや津波の記憶を継承する歌を作成したり、被災者に津波の経験を語ってもらい、ドキュメンタリーとして記録映像を作成するといったユニークなアイデアも数多く出されたりしました。

この他、ジャクアラ大学の学生による『稲むらの火』の劇や、津波被災孤児によるアチェダンスが披露され、成功裏に幕を閉じました。MERCY Malaysia では引き続き、この地域において、復興活動を行っていく予定です。

バングラデシュでは、BDPC の主催により、『稲むらの火』教材を活用し、津波災害への住民の意識啓発を推進するための取



り組みが行われました。活動は、コックスバザール郡のモヘッシユカリ、ボルグナ郡のパサルガタ、ノアカリ郡のハティアの 3 地域で展開されました。各地域でのワークショップの開催に先駆け、まず首都ダッカにおいて地域の代表者を招聘してプログラムの展開に関する協議会が行われ、この協議の結果に基づいて研修資料の準備が行われました。

ベンガル湾に位置するハティアにおいては、1 日目は地域におけるプログラムへの理解を高めるために、NGO・宗教団体の指導者、教師の代表者、サイクロンパネルの指導者を招聘した説明会が行われ、ハティア区長の参加も得て地域での展開への支援を確実にすることができました。2 日目は学校教員を対象に、3 日目は地元 NGO やコミュニティ指導者を対象に、4 日目はサイクロンパネルのメンバーを対象にして、『稲むらの火』の紹介や、津波の知識、バングラデシュにおける早期警報システムなどについて学ぶワークショップが開催されました。どのワークショップにおいても、活発な質問、意見が聞かれ、日ごろ洪水や侵食被害などの多くの災害に悩まされている地域における津波災害や防災に関する関心の高さが感じられました。

同様のプログラムが他の 2 地域でも展開され、今後このワークショップの参加者によって、コミュニティの人々に津波についての啓発が行われていく予定です。この件の詳細につきましては、児玉研究員 (kodama@adrc.or.jp) までお願いいたします。

➤ ADRC 客員研究員レポート

□ サンヒョク・カンさん(韓国)



韓国の江原道や慶尚南道を襲った台風ルーサー (2002 年) や台風マエミ (2003 年) は、1927 年に韓国で気象台が設立されて以来、記録的な洪水被害をもたらしました。この二つの災害は、多くの市街地を浸水させ、インフラなどの重要施設・設備を完全に麻痺させたのみならず、多くの尊い人命を奪い、深刻な被害を与えました。この被害は、韓国が経験した自然災害の中で、最悪のものとなりました。これら台風による教訓から、韓国国民の間では、水害は、自然災害ではあるが、人間の手で軽減することができるものであるということが幅広く認知されるようになってきています。

韓国政府により、ハードおよびソフト対策を含む災害被害を減少するための行動計画が作成されています。また、持続的に災害リスクを管理するために、2006 年、韓国政府は国立防災教育研究院を設立しました。この研究院は、防災を担う公務員を対象とした防災意識の啓発を目的としています。

韓国へ帰国したあと、水害からの被害をいかに減少させるかについて、教育研究院で講義を行うことになっており、日本での経験を生かすことができればと思っています。

最後に、日本で勉強する貴重な機会を与えて下さった韓国消防防災庁 (NEMA) と ADRC に感謝申し上げます。

ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行：Asian Disaster Reduction Center (アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 ひと未来館 5F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(262)5540 FAX: 078(262)5546

誌代・送料： 無料 / 毎月 2 回発行 (予定)